

平成31年度JKA  
補助事業

会議名	開催地	開催日	参加国・機関及び人数	出席者 (報告者)	概要
ISO/TC37/SC5/WG1, 2	カナダ、オタワ	6月23～28日	約200名 日本、ドイツ、アメリカ、アルゼンチン、コロンビア、ブリュッセル、カナダ、オーストラリア、中国、フィンランド、オーストリア、ギリシャ、イギリス、スペイン	Andrew Migita Meehan	ISO 23155会議通訳について ・日本側意見はすべて受け入れられ、欧州議会その他ISO重鎮の賛同も得られました。  ISO PAS24019同時通訳プラットフォームについて ・本オタワ総会では、まだ掘みどころのないこの規格の外枠づくりに討議は集中しました。8～10本(数はまだ流動的)のテーマに別れて外枠づくりは進行中です。 出席したことの効果 ・欧州議会、欧州委員会など通訳者を年間何千人も雇う、ISOの中でも重鎮である側と日本の現状、そして考え方が、大方一致していることをヒアリングできたことは成果であり、また安心である。  今後の対応 ・今後の対応としては、日本側と意見を同じにする委員のコメントなどを追ひ、Zoom(以前はWebEx)会議で日本側は発言すべきところは発言し、進捗確認をする必要があります。
ISO/TC178/WG4/TFRA	英国、ロンドン	8月20～21日	アメリカ、フィンランド、スイス、ドイツ、オーストリア、日本 計8ヶ国・機関 13人	伊藤 和昌	(1)次の1)から6)までの各サブチームの活動進捗報告があった。 1)SIL格付け回路サブチーム 2)ライフサイクルと故障確率サブチーム 3)既存エレベーターの安全性向上サブチーム 4)エレベーター/建物インターフェースサブチーム 5)メンテナンスとサービスサブチーム 6)エスカレーターサブチーム (2)今後の活動方針 各サブチームの課題推進及び建物インターフェースに対する新検討項目より適切な4～5例を選定し、議長に連絡することが議決された。本規格(ISO/TR 14798-1/-2)の改訂発行を2022年3月にすることで合意した。 (3)その他 1)本会議に関係するWG12(サイバーセキュリティ)の議長選出の紹介があった。 2)新技術(IoT, AI, デジタルライゼーション等)を検討する新AHグループの議長選出の紹介があった。
ISO/TC178/WG4/TFRA	英国、ロンドン	8月20～21日	アメリカ、フィンランド、スイス、ドイツ、オーストリア、日本 計8ヶ国・機関 13人	福山 栄男	(1)次の1)から6)までの各サブチームの活動進捗報告があった。 1)SIL格付け回路サブチーム 2)ライフサイクルと故障確率サブチーム 3)既存エレベーターの安全性向上サブチーム 4)エレベーター/建物インターフェースサブチーム 5)メンテナンスとサービスサブチーム 6)エスカレーターサブチーム (2)今後の活動方針 各サブチームの課題推進及び建物インターフェースに対する新検討項目より適切な4～5例を選定し、議長に連絡することが議決された。本規格(ISO/TR 14798-1/-2)の改訂発行を2022年3月にすることで合意した。 (3)その他 1)本会議に関係するWG12(サイバーセキュリティ)の議長選出の紹介があった。 2)新技術(IoT, AI, デジタルライゼーション等)を検討する新AHグループの議長選出の紹介があった。
ISO/TC178/WG4/TFRA	英国、ロンドン	8月20～21日	アメリカ、フィンランド、スイス、ドイツ、オーストリア、日本 計8ヶ国・機関 13人	箱崎 勝則	(1)次の1)から6)までの各サブチームの活動進捗報告があった。 1)SIL格付け回路サブチーム 2)ライフサイクルと故障確率サブチーム 3)既存エレベーターの安全性向上サブチーム 4)エレベーター/建物インターフェースサブチーム 5)メンテナンスとサービスサブチーム 6)エスカレーターサブチーム (2)今後の活動方針 各サブチームの課題推進及び建物インターフェースに対する新検討項目より適切な4～5例を選定し、議長に連絡することが議決された。本規格(ISO/TR 14798-1/-2)の改訂発行を2022年3月にすることで合意した。 (3)その他 1)本会議に関係するWG12(サイバーセキュリティ)の議長選出の紹介があった。 2)新技術(IoT, AI, デジタルライゼーション等)を検討する新AHグループの議長選出の紹介があった。
ISO/IEC JTC 1/SC 17/WG 1	米国 ミネソタ州 オッターレイ	6月25～27日	合計6ヶ国・21人 アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、ニュージーランド、日本	前田 めぐみ	・ISO/IEC 7810はDIS投票コメント処理。日本コメント2件、FDIS投票へ進むことで合意。 ・ISO/IEC 10373-1はDIS投票コメント処理。日本コメント31件、ドイツ・フランスより試験方法の条件を変更提案あり、合意。FDIS投票へ進むことで合意。 ・ISO/IEC 18328-2はCD投票コメント処理。日本コメント10件。日本より厚み規格を反対する試験結果を報告するが、ドイツより反対にあう。条件付きで厚み規格を設けることで決着。2ndCD投票へ進むことで合意。 ・ISO/IEC 24789-1,2は2019年10月国際会議後にCD投票へ進めるべく、日本からは具体的な試験項目・方法(耐久性テスト計画、可塑性試験方法、表面摩擦試験方法)についてプレゼン。可塑性試験は入手困難材料を使用しているため却下されるが、他はWD案の変更へ至る。その他各国からも各種プレゼンあり。
ISO/IEC JTC 1/SC 17/WG 1	米国 ミネソタ州 オッターレイ	6月25～27日	21名(議長、英1、米8、仏2、独4、ニュージーランド1、日本3、ICMA1)	辰 基太郎	ISO/IEC 24789-1の改版作業において、2019/10でのCD移行に向け日本を含めた各国でExcel tableを精査した結果を共有し、Excel tableの修正がなされた。 ISO/IEC 24789-2の改版作業において、テーパ摩耗試験について摩耗試験パラメータの計算に保管場所からの取り出しによる摩耗パラメータを加えることを提案し、受け入れられた。またイギリス、ドイツより提案されていた別方式の摩耗試験について検証は進めるが今回の改版には間に合わず次回以降の改版で採用検討することとなった。

ISO/TC37/SC5	カナダ、オタワ	6月23～28日	日本、カナダ、米国、ドイツ、オーストリア、英国、フィンランド、オーストラリア、ベルギー、欧州連合、欧州委員会、国際会議通訳者協会(AIIC)、国際翻訳連盟(FIT)	佐藤 晶子	1)WG1 『ISO/DIS 20771』リーガル翻訳要求事項は、6月25日期限の投票の結果、3か国反対、7か国棄権、22か国賛成投票を行い、FDISへの移行は承認された。 『ISOTS11669:2012』『ISO/AWI 21999』についてアドホック・ミーティングが開催され、話し合いが行われた。後日ZOOM ミーティングの予定。 2)WG2 『ISO/CD 21998』医療通訳要求事項は、3月にCD投票済。今年度はDIS投票に向けて各国コメントの整理を行った。特に手話通訳に関する調整が行われた。 3)TCG 『ISO/DIS 20539』は策定中のWG3通訳機器、WG2会議通訳用語を検討。調整が長引いているが、今年度DISからFDISへと移行予定。 4)日本からのインハウスに関する提案について コンビーナ(EU職員)及び国内委員長の忠告に従い、各国エキスパートに問い合わせを行った。
IEC/TC99/MT4	スウェーデン、ストックホルム	6月12～14日	日本、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、ドイツ、オーストラリア 計8名	高尾 登	・IEC 61936-1(交流1kV超過の電力設備 - 第1部: 共通規則)の次期改定版(第3版)を検討する MT 4としては第7回目の会議である。 ・前回会議(2018年10月)で、CD(委員会原案)の検討を終え、第1回目のCDが2019年1月に回付され(99/226/CD)、各国からのコメントが集められた。 ・今回の会議では、その各国コメントに対する対応を審議する目的で予定、開催されたが、速やかに処理できようとした事前の予想に反し、約600件ものコメントが寄せられた。 ・議論は、用語の定義をはじめとして、各国の解釈が異なるため(従って、記述が曖昧とも言える)、本文の修正要望が多く、要望を受け入れるかどうかについてメンバーでも議論が分かれた。 ・技術的コメントに対する審議を集中して行ったものの、約100件程度を処理するに留まり、未了のコメントを処理する為に、会議の追加や国際規格発行までのスケジュールを見直すこととなった。 ・2019年内にはCDV(投票用委員会原案)を回付する予定であったが、半年程度延期とし、その間、Web会議や対面会議を追加するとともに、その際は、コメントの分類と難易度によるランク分けなどの準備をし、審議の効率化を図る予定である。
IEC/IECEE/CMC	チリ、サンチャゴ	6月5～6日	アルゼンチン、オーストリア、ベラルーシ、ベルギー、カナダ、チリ、中国、チェコ、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ハンガリー、イスラエル、イタリア、日本、韓国、メキシコ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ロシア、サウジアラビア、セルビア、シンガポール、スロベニア、南アフリカ、スウェーデン、スイス、ウクライナ、アラブ首長国連邦、英国、米国(オブザーバー国)ブラジル、ペルー 35か国、87名	佐藤 恒之	IECEEウェブサイト上に各国が提供している自国の「規制要求事項」情報について、今回、全面的な削除を決議(情報の内容の精度に問題があるため。今後、各認証機関が、個別に問合せに対応する)。工場検査サービス(FSS)の2019年12月31日をもっての停止を決定(利用されていないため)。顧客試験施設(CTF)による試験結果のCB試験レポートでの使用について、複数の顧客試験施設が同じ企業グループ内であれば、それらによる(複数の)試験結果を1件のCB試験レポートで使用し得ることが明確化された。「電動工具に内蔵される二次電池を『電動工具規格の中の電池への要求事項』により試験し、当該二次電池のみについてのCB証明書を発行すること(規格の部分適用)については継続審議となった。外部機関(国際電気通信連合、国際連合)との提携案について、推進する方向で検討を続けることが決定された。
ISO/TC232/AHG2,AHG3,WG2,WG5,WG6	フランス、リヨン	6月3～7日	計15名:中国(5名)、フランス(3名)、米国(2名)、日本(2名)、ドイツ(1名)、イタリア(1名)、ポルトガル(1名)	大槻 卓	TC 232/AHG 2:ISO 21001:2018の改訂に関する議論。 TC 232/AHG 3:TC 232のビジネスプラン改訂に関する議論。市場調査のためのAHGを新たに設置予定。 TC 232/WG 2:ISO 29991:2014の定期見直しに関する議論。見直し作業後、CD登録し投票開始予定。 TC 232/WG 5:ISO 29995のDISに向けた議論。 TC 232/WG 6:ISO/WD2 29994に関する議論。次回のポルト大会までにCD登録予定。
ISO/TC232/AHG2,AHG3,WG2,WG5,WG6	フランス、リヨン	6月3～7日	計15名:中国(5名)、フランス(3名)、米国(2名)、日本(2名)、ドイツ(1名)、イタリア(1名)、ポルトガル(1名)	中村 公美	TC 232/AHG 2:ISO 21001:2018の改訂に関する議論。 TC 232/AHG 3:TC 232のビジネスプラン改訂に関する議論。市場調査のためのAHGを新たに設置予定。 TC 232/WG 2:ISO 29991:2014の定期見直しに関する議論。見直し作業後、CD登録し投票開始予定。 TC 232/WG 5:ISO 29995のDISに向けた議論。 TC 232/WG 6:ISO/WD2 29994に関する議論。次回のポルト大会までにCD登録予定。
ISO/TC178/WG5	オーストリア、ウィーン	8月12～14日	ドイツ(2)、オーストリア(2)、オーストラリア(1)、イタリア(1)、イギリス(1)、アメリカ(1)、日本(2) 計7か国、10名	坂田 幸司	1. ISO規格に地域規格を引用することの著作権問題 ISO/TC178事務局から規格内容だけでなく表題も著作物に該当するとの報告を受けた。著作権問題を回避するため、改訂中のISO/TR 14799-2の記載方法について数案提示し、ISO/TC178事務局判断を仰ぐことにした。 2. 他WGからの検討依頼事項 ISO/TC178/WG8の議長と電話会議を行い、WG5での著作権問題解決に向け、WG8からもISO/TC178事務局へ働きかけることを合意した。また、ISO 18738(乗り心地の測定)に関する中国SAC/TC196からの質問について、ISO/TC178/WG9で作成した回答内容を審議した。 3. ISO 8103-1(エスカレーター-の安全要求事項)開発ロードマップ エレベーター規格ISO 8100と同様の手順で、EN115-1をベースにして規格開発することを決定した。ISO/TS 8100-3相当の米国、日本との規格比較表を作成することを共有した。また、ISO 8103-1の開発を加速させるため、会議の追加を合意した。 4. ISO/TR 14799-2(ISO/TR 14799-1の安全規格の要約とコメント)の更新 1項の著作権問題を回避した記載方法への変更を行った。
ISO/TC178/WG5	オーストリア、ウィーン	8月12～14日	ドイツ(2)、オーストリア(2)、オーストラリア(1)、イタリア(1)、イギリス(1)、アメリカ(1)、日本(2) 計7か国、10名	田原 健剛	1. ISO規格に地域規格を引用することの著作権問題 ISO/TC178事務局から規格内容だけでなく表題も著作物に該当するとの報告を受けた。著作権問題を回避するため、改訂中のISO/TR 14799-2の記載方法について数案提示し、ISO/TC178事務局判断を仰ぐことにした。 2. 他WGからの検討依頼事項 ISO/TC178/WG8の議長と電話会議を行い、WG5での著作権問題解決に向け、WG8からもISO/TC178事務局へ働きかけることを合意した。また、ISO 18738(乗り心地の測定)に関する中国SAC/TC196からの質問について、ISO/TC178/WG9で作成した回答内容を審議した。 3. ISO 8103-1(エスカレーター-の安全要求事項)開発ロードマップ エレベーター規格ISO 8100と同様の手順で、EN115-1をベースにして規格開発することを決定した。ISO/TS 8100-3相当の米国、日本との規格比較表を作成することを共有した。また、ISO 8103-1の開発を加速させるため、会議の追加を合意した。 4. ISO/TR 14799-2(ISO/TR 14799-1の安全規格の要約とコメント)の更新 1項の著作権問題を回避した記載方法への変更を行った。
IEC/TC15/MT3, MT16, Plenary	ドイツ、フランクフルト	9月23～27日	オーストリア、中国、スイス、チェコ、ドイツ、フランス、スウェーデン、ルクセンブルグ、英国、日本 (Plenary出席者;計25名)	山野 芳昭	(a) IEC TC15において現在活動しているProject 7件のうち、5件が日本のメンバーがProject leaderとして関与している。今回の会議で、来年にはあと3件の案件が日本のメンバー主導(Project leader)により発足予定となった。 (b) 日本が関与する新規規格の制定や改正の提案について、全て予定通りそれらの承認を得られた。 (c) パルカナイズドファイバーの基本規格、試験方法、個別製品規格の3件のCDVについて、FDISをスキップして、直接ISステージに進ませることができた。 (d) 6年越しで規格の再構成を検討していたIEC 60554シリーズ(cellulosic papers for electrical purposes)のPart 5 (Special papers)については、日本が改正CD原案を作成して、それを次回の会議に提案することとなった。

ISO/IEC JTC 1/SC 35及びWG	中国、上海	7月29日～8日2日	9カ国/38名(うちZoom 6名)+ITU-T 1名。議長(Khalid Choukri, 仏)、幹事(Nicolas Marq, 仏)で、フランス4名、カナダ3名、スウェーデン0+2名、スペイン1+1名、ドイツ2+1名、イギリス0+2名、中国10名、韓国5名、日本6名。	池田 宏明	「メニューナビゲーションのユーザインタフェース」について、 □ISO/IEC 17549-1の議論。NP+WDに対する日本意見を説明し、改訂WDに反映させた。 □ISO/IEC 17549-2の議論。Minor RevisionのFDIS登録することを合意。 □ISO/IEC 17549-3の議論。NP+WDに対する日本意見を説明し、改訂WDに反映させた。 「インタラクションモード設定用アイコン」について、 □ISO/IEC 11581-7の議論。日本意見を説明し、改訂WDに反映させた。 「自然言語選択の一般的なインタフェース」について、 □ISO/IEC 23836の議論。日本意見を説明し、DIS登録することを決議。
ISO/IEC /JTC 1/SC 17/WG 8	ドイツ、ベルリン	9月24日～9日26日	25名(オーストリア、フランス、ドイツ、日本、シンガポール、イギリス、USA)	金子 良明	・ISO/IEC NP TS 24192-1及びISO/IEC NP TS 24192-2のNP投票はApprovedされた。WDへのコメント処理を進め、DTS投票へ進めることを決議した。 ・ISO/IEC 18745-2の改定を進めることが決まった。次回のWG8会議の4 weeks前までに準備する。 ・ISO/IEC 10373-7のFDIS投票結果とコメント案について報告。修正案がISO central office受理されない場合は、コリジェンダムを発行することに決まった。WG8の合議結果を基にISO central officeに打診し、修正を認めてもらった。これで、日本から提案した高速化機能を含め、メモリ拡張及びSecurity仕様の試験を追加したISO/IEC 10373-7のFDISが完了した。昨年秋以降、acting editorとして進めて来たが、今回の会議で、私がeditorにアサインされた。
ISO/TC167/ WG3, ISO/TC167	アメリカ合衆国 フロリダ州 ドラ	10月21日～22日	TC167/WG3: オーストラリア1名 (Web)、カナダ3名、米国1名、中国3名、日本2名、ドイツ1名、ISO4名	佐々木 栄一	ISO/TC167/WG3 会議においては、鋼構造物の製作に関する基準について議論をしている。 従来審議対象であったISO/DIS17607 が8 つに分冊化され、改めて、ISO/WD17607-1～ISO/WD17607-6 として審議されている。今回の会議では、各分冊の主担当者について確認があるとともに、主に ISO/WD17607-1 (General) およびISO/WD17607-2 (Steels) について内容の確認が行われた。そこで示された意見に対応した修正案について今後検討される。また、ISO/WD17607-3～ISO/WD17607-6 については、次回会議において内容確認を進めることとなった。 ISO/TC167 会議では、新しい議長の方針説明、WG3 の主査の選出、中国から提案のあった防火塗料の試験方法に関する議論等が進められた。
ISO/TC167/ WG3, ISO/TC167	アメリカ合衆国 フロリダ州 ドラ	10月21日～22日	TC167/WG3: オーストラリア1名 (Web)、カナダ3名、米国1名、中国3名、日本2名、ドイツ1名、ISO4名	杉山 誠	ISO/TC167/WG3 会議においては、鋼構造物の製作に関する基準について議論をしている。 従来審議対象であったISO/DIS17607 が8 つに分冊化され、改めて、ISO/WD17607-1～ISO/WD17607-6 として審議されている。今回の会議では、各分冊の主担当者について確認があるとともに、主に ISO/WD17607-1 (General) およびISO/WD17607-2 (Steels) について内容の確認が行われた。そこで示された意見に対応した修正案について今後検討される。また、ISO/WD17607-3～ISO/WD17607-6 については、次回会議において内容確認を進めることとなった。 ISO/TC167 会議では、新しい議長の方針説明、WG3 の主査の選出、中国から提案のあった防火塗料の試験方法に関する議論等が進められた。
SC77B/MT12 maintenance team 12 working mee	ルーマニア、ブカレスト	9月9日～13日	(伊) Carlo Carobbi/ Alessandra Bertino (英) Stephen Colclough (独) Michael FÖRTSCH / Holger Hirsch/ Juergen Pfirrmann (米) Dennis Thai/ Steve Yow/ San Sukhjinder Toor (仏) William Magnon/ Loïc LEVIS (日) Georg Hedderich/ Takeshi Ishida (スィ) Alain Burger/ Bruno Straumann/ Nico Hensgens 計16名	ヘデリッヒ ゲオルグ	1) 静電気放電イミュニティ試験 IEC 61000-4-2の改正に対するこれまでの各国コメントを審議してCD案を作成している、大きな課題である放電電流波形の理想波形と各国試験器メーカーのESD試験器の乖離について、データを元に見直し決定した。次回2020年2月のMartinique 会議にてCD案を仕上げる予定となっている。 □放電電流波形の基準波形の見直しと波形規定の変更。 □空中放電のESD発生器の校正方法の確立。 □間接放電試験の水平結合板の形状及び寸法の見直し。 2) ファストトランジェントノバースト試験 IEC 61000-4-4の改正項目の一部を審議した。 3) 関連団体より問題指摘を受けているサージ試験IEC 61000-4-5について、新たな審議は行わないことを決定した。
IEC TC108/HBSDT上海国際会議	中国、上海	10月22日～24日	17か国(オーストラリア、ベルギー、カナダ、中国、デンマーク、ドイツ、アイルランド、日本、韓国、メキシコ、オランダ、ノルウェー、スロベニア、南アフリカ、トルコ、イギリス、アメリカ) 約50名(日本から8名)	佐藤 幸一	1) IEC62368-1の次回改訂(第4版の予定)に向けて、各国から提案された文書、計29件(内、日本から10件を提案)が審議され、11件(内、日本から4件)を採用、CD案の中に含まれることになった。また、10件の提案(内、日本から4件)は会議の中では結論が出ず、引き続き検討していくことになった。但し、CD案は、今回のHBSDT会議の結果も含めたものとして、2020年5月以降に発行予定。 2) IEC62368-3は、適用範囲により2つの規格に分離してNPを発行する予定。日本からの今回の提案も採用されNPに含めることになった。 3) IEC62102は、今回のHBSDT会議とは別に、Ad hocで検討されることとなった。 今回のHBSDT会議は2010年4月に米国で開催予定。但し、その会議の前にAd hoc会議を1日設ける可能性がある。 なお、上記1)は主に佐藤が、2)は主に柴田が担当した。
IEC TC108/HBSDT上海国際会議	中国、上海	10月22日～24日	17か国(オーストラリア、ベルギー、カナダ、中国、デンマーク、ドイツ、アイルランド、日本、韓国、メキシコ、オランダ、ノルウェー、スロベニア、南アフリカ、トルコ、イギリス、アメリカ) 約50名(日本から8名)	柴田 恵	1) IEC62368-1の改訂(第4版)に向けて、各国から提案された文書、計29件[内、日本から10件(Ad hocの結果を日本がまとめたものを含む、以下同様)]が審議され、11件(内、日本から4件)が採用され、CD(今回のサンディエゴ会議の結果も含め、2020年5月以降に発行予定)に含まれることになった。また、10件(内、日本から4件)が引き続き検討していくことになった。(日本から提案したエンクロージャの開口に対する要求に関しては、日本から追加データを提出することになった。) 2) IEC62368-3は、適用範囲となる機器分類し、2つの規格として発行することが決まっているが、日本からの提案は、そのNPの中に含まれることになった。 3) IEC62102は、Ad hocで検討されており、今回のHBSDT会議では、審議されなかった。今回のHBSDT会議(2010年4月)に先立ち、Ad hoc会議(1日)を設定することを検討中。 なお、上記1)については主に佐藤が、2)については主に柴田が担当した。
IEC TC 86/SC 86C/WG 2	中国、上海	10月17日	ドイツ、日本、アメリカ、フランス、韓国、中国12名 (6ヶ国)	高橋 正雄	・IEC 61757-4-3の議論 日本提案(PL: 高橋正雄)のIEC 61757-4-3: Fibre optic sensors -Electric current measurement - Polarimetric methodのCDV投票が終了。反対0で承認された。コメントはエディトリアルのみでFDISをスキップし、規格発行のプロセスに入ることが決議された。 ・他 IEC 61757-3-2 2019-09-20 NP承認。日本提案鳥のタイトル変更を決議 IEC-61757-5-1 2019-10-11 NP承認。ドラフトを審議。読みやすさの観点での改善案を決定
IEC TC 86/SC 86C/WG 3	中国、上海	10月18日	アメリカ、日本、中国、ドイツ、フランス、イギリス、カナダ、韓国 24名(8カ国)	山田 誠	審議文書33件(主な文書を以下に記載) IEC 61290-1-1 Ed.4(利得パラメーター光スペクトラムアナライザ法)【日本担当】: 2CD回覧コメント審議、CDV回覧決定 IEC 61290-1-3 Ed.4(利得パラメーター光パワーメータ法)【日本担当】: CD回覧が決定。 IEC 61291-2 Ed.4(性能仕様テンプレート - 単一チャンネル用光増幅器)【日本担当】: 改訂(Ed.5)する方針で合意、但し参照する文書IEC 61290-1-1の改訂のタイミングを考慮し、安定化期日の2年延長(2023年)を確認 IEC 61290-1-3 Ed.4(利得パラメーター光パワーメータ法)【日本担当】: CD回覧が決定。 IEC 61292-3 Ed.2 光増幅器分類【日本担当】: DTR回覧コメントを審議。エディトリアルコメントに対応したのち、TRへ進めることが決定。 新規文書審議: 次回会合に日本が素案を提出することに決定。



IEC TC 42全体会議, TC 42/MT16, TC 42/MT7,	中国、上海	10月22日～24日	参加国: 10カ国, 機関: 大学及び政府民間研究機関, 参加者: 30名	里 周二	60060-1: Stability Date(以下SDと略記)2023: 開閉インパルスの定義を変更。 60060-2: SD 2023: combined, composite試験法の記述を変更。 60060-3: SD 2023: 変更なし。 61083-1: SD 2020, FDISへ。 61083-2: SD 2022, 日本提案を受け入れ新たに3種類の波形をTDGで発生させる。 61083-3: SD 2022, CDV(2018)を受けてFDISへ。 61083-4: 未出版なのでSDなし。2019末までにラウンドロビン。 61180: SD 2022, 新しくCDができあがったばかり, 反応を待つ。 WG22: ドイツの高専での研究紹介。 62475: SD 2021, 修正は僅か。 60270, 62478 参加者少なく, 中断状態。 WG 19: 解散 次回TC42は2020年10月6-8日ストックホルム開催。
ISO/IEC JTC 1/SC 17/WG 1	ミネソタ州 プレイナード	10月7日～9日	合計6か国・21名 アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、ニュージーランド、日本	前田 めぐみ	・ISO/IEC 7810はFDIS投票期間中につき審議事項なし。 ・ISO/IEC 10373-1はFDIS投票前。次回改正にむけてドイツより3ホール試験の検討開始の報告があった。 ・ISO/IEC 18328-2は2回目のCD投票コメント6件の処理。日本コメント1件。日本より厚み規格を反対する旨を報告するが、ドイツより再度反対にあう。CD投票案よりさらに制約を設けた条件付きで厚み規格を設けることで決着。3回目のCD投票へ進むことで合意。 ・ISO/IEC 24789-1,2は2020年2月国際会議後にCD投票へ進めるべく、日本からは具体的な試験項目・方法(可塑剤試験方法、表面摩擦試験方法)についてプレゼン。可塑剤試験は改定案の材料が入手困難であることを報告し、現行の材料も選択できるように修正の合意を得た。その他各国からも各種プレゼンあり。
ISO/IEC JTC 1/SC 17/WG 1	ミネソタ州 プレイナード	10月7日～9日	合計6か国・21名 アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、ニュージーランド、日本	辰 基太郎	ISO/IEC 24789-1の改版作業において、2020/2でのCD移行に向けExcel tableの修正案が共有され、レビューした。主に試験対象(Card body、IC chipなど)によって試験内容を変更する内容が追加となった。 ISO/IEC 24789-2の改版作業において、磁気テープ摩擦試験として日本から提案している研磨フィルムを用いたテーパ摩擦試験の試験条件を紹介し、受け入れられた。試験方法と試験回数がそれぞれ24789-1,2のWDIに記載されることとなった。
①ISOファインバブルセミナー②ISO/TC281/WG1	中国、杭州	①9月24日②9月25日～	参加国: 英国、シンガポール、韓国、中国、米国、ドイツ、ロシア、日本 参加者数: 40名	島岡 治夫	下記4つの日本提案による規格案が審議された。 ① DIS21910-1「マイクロバブルのサイズインデックス評価—オフライン測定」 編集に関するコメントについて修正点を説明、発行の決議を得た。今年度中の発行を見込む。 ② AWI24261-1「消泡技術Part 1」 NP投票で承認済み。その際の誤解に基づくコメントに対し、図を用いた丁寧な説明を行い、DIS投票に進む決議を得た。今後ドラフトを精査し、早期の発行を目指す。 ③ 新規AWI24261-2「消泡技術Part 2」 今回が初提案。英国との共同提案でドラフトも準備。NP投票に進む決議を得たので英国との調整の上、表現の統一などのドラフト修正を進める。 ④ PWI24218-1「レーザ回折・散乱法」 ファインバブルに関する知識が皆無の新規参加者の発言により議論がかみ合わず、PWIに留まった。
①ISOファインバブルセミナー②ISO/TC281/WG1	中国、杭州	①9月24日②9月25日～	参加国: 英国、シンガポール、韓国、中国、米国、ドイツ、ロシア、日本 参加者数: 40名	大内 静香	・原案作成に携わったマイクロバブルの評価法に関する規格、DIS21910-1「マイクロバブルの特性—パート1: サイズインデックスのオフライン効果」は、コメントについて説明を行い、IS発行に進める決議が得られた。 ・原案作成に携わったウルトラファインバブルの消泡法の新規提案、24261-2「サンプル特性のための消泡方法—パート2: 消泡技術」は、各国の意見に対しての対応を行った。これによりNP投票の決議が得られた。
①ISOファインバブルセミナー②ISO/TC281/WG1	中国、杭州	①9月24日②9月25日～	参加国: 英国、シンガポール、韓国、中国、米国、ドイツ、ロシア、日本 参加者数: 40名	矢部 彰	・日本提案 CD20304-2「オゾンファインバブル発生システムの脱色性能評価」および米国提案 CD21256-3「洗浄応用—パート3: ハード床表面の洗浄試験方法」の両提案は、コメント処理後、DIS登録の決議が得られた。 ・韓国からの新規2提案をNP投票に進め、日本からの新規提案「農業応用—種子発芽を促進することが可能なUFB濃度下限値」と中国からの新規提案「環境応用—通気性能評価の試験方法」の両提案はPWI登録の決議を得た。
①ISOファインバブルセミナー②ISO/TC281/WG1	中国、杭州	①9月24日②9月25日～	参加国: 英国、シンガポール、韓国、中国、米国、ドイツ、ロシア、日本 参加者数: 40名	宇川 岳史	CD20304-2「水処理—Part 2: オゾンファインバブル発生システムの脱色性能評価」は、コメント処理後、タイトルを変更する一部修正があったが、DIS投票へ進む決議が得られた。また、水処理の規格として、韓国からの新規2提案をNP登録することが決議された。 韓国新規2提案は下記の通り。 ・水処理—Part 3: 粒子計算方法による空気浮揚プラントのBBDの評価 ・水処理—Part 4: DAFプラントにおけるバブル体積濃度の間接的評価方法
①ISOファインバブルセミナー②ISO/TC281/WG1	中国、杭州	①9月24日②9月25日～	参加国: 英国、シンガポール、韓国、中国、米国、ドイツ、ロシア、日本 参加者数: 40名	田中 充	・「ファインバブル発生機用語」規格審議に於いて、原案上の用語の説明をより厳密かつ詳細にすべしとの他国の意見に対して、わが国発生機メーカーの意向を踏まえ、技術知財保護の観点からこれ以上詳細にすることの非、定義文通りの適用が難しい事による厳密さ追求の非を訴え、容れられ、CD化された。 ・わが国提案の「超音波による消泡技術規格」について、開催国のオブザーバーからその技術が有効ではないと断言する指摘がデータとともに示されたが、データの実験条件が同規格が規定する条件から大きく外れており、指摘が不当であることを訴え、参加者のNP化への了解を得た。 ・「床洗浄応用規格」案での試験法の事例と称して特定の商品を宣伝することへの非を訴えたところ、発展途上の分野であることから普及促進の観点からより具体的な情報提供は積極的に受け入れるべきとの意見が多く、退けられ、DIS化された。
①ISOファインバブルセミナー②ISO/TC281/WG1	中国、杭州	①9月24日②9月25日～	英国、シンガポール、韓国、中国、米国、ドイツ、ロシア、日本 40名	北川 順久	全ての審議において幹事国として対応案を示し、下記結果を得た。 1) CD 20480-3「一般原則—第3部: ファインバブル(FB)発生システムの用語」は検討事項多く、修正CD回付を決議 2) PWI 24217-2「FB技術におけるSDGsの適用ガイドライン」はNP投票を決議 3) DIS 21910-1「サイズインデックスのオフライン評価」は発行を決議 4) AWI 24261-1「サンプルの特性評価のための消泡方法—第1部: 評価手順」はDIS投票を決議 5) 上記に続く新規提案「同第2部: 評価技術」はNP登録を決議 6) CD 20304-2「オゾンFB発生システムの脱色性能評価」はDIS投票を決議 7) 新規提案「農業応用—第3部: ウルトラファインバブルの個数濃度の低濃度領域における大麦種子発芽を促進に関するガイドライン」はPWI登録を決議 以上の日本提案7件の段階を大幅に進展させることができた。 また、海外諸国の提案7件(内訳は、英国1件、韓国4件、米国1件、中国1件)の審議にも積極参加し、幹事国の役割を果たした。
①ISOファインバブルセミナー②ISO/TC281/WG1	中国、杭州	①9月24日②9月25日～	英国、シンガポール、韓国、中国、米国、ロシア、日本、ドイツ 40名	布施 剛之	日本提案「ファインバブル(FB)発生システムの用語(ISO/CD 20480-3)」をプロジェクトリーダーとしてプレゼンし、審議を行う。中国よりタイトル変更の打診があり、継続してCD2審議をすることを確認。韓国提案の「マイクロバブルベッドに関する用語(ISO/CD 20480-4)」を審議し、DIS投票の実施を合意。日本提案の承認済新業務項目「ガイドライン—パート1: ファインバブル適用基準の分類(ISO/PWI 24217-1)」は、ドラフト案をより正確に作成すべく継続審議とした。日本提案の承認済新業務項目「ガイドライン—パート2: FB規格のSDGsの適用(ISO/PWI 24217-2)」を審議しNP投票の実施を合意。

ISO/TC313/WG1, 全体会議	イタリア、ミラノ	10月21日～24日	アメリカ、イギリス、イタリア、スイス、スウェーデン、ドイツ、フランス、中国、日本(3名+通訳1名)	福田 隆文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO/TC313とは、イタリア標準化機構から国際規格化の提案により、CEマーキングの個別規格であったEN415シリーズをベースに国際規格を制定するための審議委員会である。</li> <li>①ISO/TC 313/WG1 2nd</li> <li>ISO 24158-1包装機械の安全性・一般要求事項の規格開発のため、TC313/WG1_N7ワーキングドラフトに対する各国からの修正意見や追加要件など計154項目の審議を予定したが、結果として、議論は半分以下であった。</li> <li>次回会議の日程 (Date of the next meeting)</li> <li>・第3回 ISO/TC313/WG1会議: 2020年5月5日～7日 フランクフルト (N4で決定済み)</li> <li>・第4回 ISO/TC313/WG1会議: (仮の予定 2020年10月21日～22日 ミラノ)</li> <li>②ISO/TC 313 2nd</li> <li>全体会議は、ISO/TC313_N27 議題案に沿って審議が行われ、主にスケジュールを中心に議論した。</li> <li>次回の会議に関する要求事項 (Requirements concerning a subsequent meeting)</li> <li>・第3回 ISO-TC313 全体会議 2020年10月22日 ミラノ UNIで開催</li> </ul>
ISO/TC313/WG1, 全体会議	イタリア、ミラノ	10月21日～24日	アメリカ、イギリス、イタリア、スイス、スウェーデン、ドイツ、フランス、中国、日本(3名+通訳1名)	江口 孝男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO/TC313とは、イタリア標準化機構から国際規格化の提案により、CEマーキングの個別規格であったEN415シリーズをベースに国際規格を制定するための審議委員会である。</li> <li>①ISO/TC 313/WG1 2nd</li> <li>ISO 24158-1包装機械の安全性・一般要求事項の規格開発のため、TC313/WG1_N7ワーキングドラフトに対する各国からの修正意見や追加要件など計154項目の審議を予定したが、結果として、議論は半分以下であった。</li> <li>次回会議の日程 (Date of the next meeting)</li> <li>・第3回 ISO/TC313/WG1会議: 2020年5月5日～7日 フランクフルト (N4で決定済み)</li> <li>・第4回 ISO/TC313/WG1会議: (仮の予定 2020年10月21日～22日 ミラノ)</li> <li>②ISO/TC 313 2nd</li> <li>全体会議は、ISO/TC313_N27 議題案に沿って審議が行われ、主にスケジュールを中心に議論した。</li> <li>次回の会議に関する要求事項 (Requirements concerning a subsequent meeting)</li> <li>・第3回 ISO-TC313 全体会議 2020年10月22日 ミラノ UNIで開催</li> </ul>
ISO/TC313/WG1, 全体会議	イタリア、ミラノ	10月21日～24日	アメリカ、イギリス、イタリア、スイス、スウェーデン、ドイツ、フランス、中国、日本(3名+通訳1名)	齋藤 勲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO/TC313とは、イタリア標準化機構から国際規格化の提案により、CEマーキングの個別規格であったEN415シリーズをベースに国際規格を制定するための審議委員会である。</li> <li>①ISO/TC 313/WG1 2nd</li> <li>ISO 24158-1包装機械の安全性・一般要求事項の規格開発のため、TC313/WG1_N7ワーキングドラフトに対する各国からの修正意見や追加要件など計154項目の審議を予定したが、結果として、議論は半分以下であった。</li> <li>次回会議の日程 (Date of the next meeting)</li> <li>・第3回 ISO/TC313/WG1会議: 2020年5月5日～7日 フランクフルト (N4で決定済み)</li> <li>・第4回 ISO/TC313/WG1会議: (仮の予定 2020年10月21日～22日 ミラノ)</li> <li>②ISO/TC 313 2nd</li> <li>全体会議は、ISO/TC313_N27 議題案に沿って審議が行われ、主にスケジュールを中心に議論した。</li> <li>次回の会議に関する要求事項 (Requirements concerning a subsequent meeting)</li> <li>・第3回 ISO-TC313 全体会議 2020年10月22日 ミラノ UNIで開催</li> </ul>
ISO/TC261-ASTM F42 合同国際会議	フランス、サンリス	9月17日～9月20日	19カ国、82名 (ISO参加登録者数)	渡部 敏成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本提案Additive manufacturing – Test method of sand mold for metalcasting のNP投票結果 (Approve) の情報共有、コメントに対するフォロー。</li> <li>・上記提案の審議に入るにあたり、ASTMからのエキスパートメンバを募集。ASTMのJesse boyer氏 (NIST) がメンバを募ることになった。(ISO/TC261-ASTM_F42 ではISOとASTMの双方がエキスパートを派遣し審議することになっている。)</li> </ul>
ISO/TC261-ASTM F42 合同国際会議	フランス、サンリス	9月17日～9月20日	19カ国、82名 (ISO参加登録者数)	眞部 弘宣	<ul style="list-style-type: none"> <li>①WG4 Data and Design</li> <li>・医療分野について他のTCやJGでも議論が進んでおり、各リーダが情報を共有しながら進めることで認識を統一した。</li> <li>・AM技術にフォーカスすべきJGが、他の産業界まで範囲のスタンダードまで触れていることに問題が発生しており、重複部分を取り除き無くすべきとの結論に至った。</li> <li>②JG57 Process-specific design guideline and standards</li> <li>・EB-PBF方式のドラフトが完成し配布された。内容は日本としても概ね問題なしと判断する。</li> <li>・LB-PBF方式の規格との違いの確認が進められ、加熱方式、パウダー除去、ビーム走査等の違いを盛り込み、その内容について合意した。</li> </ul>
ISO/TC184/SC1/WG7, WG11, ISO/TC184/SC1	ドイツ、フランクフルト	9月24日～9月26日	SC1:15名、7カ国(ドイツ、フランス、イギリス、スイス、中国、韓国、日本) WG7:13名、7カ国(同上) WG11:16名、7カ国(同上)	坂本 千秋	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ISO/TC184/SC1</li> <li>・ISO/TC184/SC1/WG7(CNCデータモデル)の新コンビナに、日本から立候補し、異議なく承認された。</li> <li>・同SC1のタイトルについて、“Industrial cyber- and physical device control”とする案で、CIB投票を行うこととした。</li> <li>●ISO/TC184/SC1/WG7</li> <li>・日本提案のISO 14649-2,-3,-4及び-5の開発計画について議論した。2020年5月までに各CD documentを用意する。</li> <li>・ISO/DIS 14649-17への各国コメントの議論。審議の結果、FDISに進むこととなった。</li> <li>●ISO/TC184/SC1/WG11</li> <li>・ISO/WD 23704-1及び-2への各国コメントの議論。審議の結果、2nd WDに進むこととなった。</li> </ul>
IEC TC120(電気エネルギー貯蔵システム) WG4	中国、北京	10月17日～10月18日	中国、韓国、インド、オーストラリア、日本 計13名	和知 功	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) EV等で使用された蓄電池の蓄電システム側でのライフサイクル視点での二次利用に関する日本提案のプレゼン。2019年11月 イタリアでのTC120 Plenaryで説明後、NWIPとして回付することをWG4として決議。</li> <li>(2) 中国と韓国各々からLiB、NaSなど電気化学電池を使った蓄電システムの環境アセスメント関連の提案プレゼン。各提案の分担調整を次回11月イタリアでのWG4で調整後、Plenaryで説明、NWIPとして回付することを決議。</li> </ul>
ISO/TC178/WG4, WG4/TFC, WG6	フランス、パリ	11月4日～11月8日	アメリカ、フィンランド、スイス、ドイツ、オーストリア、日本、PALEA他 計12ヶ国・機関 31人	伊藤 和昌	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)各サブチームの活動進捗報告及び審議</li> <li>1)TFRA</li> <li>規格開発のロードマップ報告の結果、2022年3月発行予定としたことが承認された。</li> <li>2)TFC</li> <li>前日開催のTFC会議で更新したロードマップを報告し、Phase 2は2023年3月に完了予定スケジュールが承認された。</li> <li>3)TFCA</li> <li>ISO/TS 8100-22(現ISO 22559-3)及びISO/TS 8100-23(同22559-4)の改訂作業の進捗の説明があった。</li> <li>(2)その他</li> <li>1)韓国でのIoT技術の状況及び標準化状況に関し、プレゼンが行われた。</li> </ul>

ISO/TC178/WG4, WG4/TFC, WG6	フランス、パリ	11月4日～11月8日	カナダ、アメリカ、イギリス、フィンランド、イタリア、スイス、日本計16ヶ国・機関 32人	福山 栄男	SG1: Lift dimensions: ISO 8100-30 (former ISO 4190-1)はFDIS投票の結果、承認された。編集的な修正の終了後、発行される予定。(約6週間後) SG2: Fire testing of doors: EN81-58:2020の改訂で反映してゆく。 SG3: Accessibility: ISO 8100-7の進捗を報告した。 SG4: Evacuation and emergency: ISO TS 8101-1の進捗を報告した。 SG5: Planning and selection: ISO 8100-32 は、DIS承認投票の結果、承認された。日本コメントへの回答を協議したが、要望事項が取り入れられず、別途決着することとした。 SG6: Seismic conditions: ISO TR 25741改訂の進捗を報告した。 SG7: Comparison of WW safety standards: ISO TR 8101-10改訂のアンケートの投票は締め切られた。回答の内容については、今後タスクグループで確認する。 (2)北米、欧州、日本の耐震規定の更新報告 日本からは、地震では無いが、台風による浸水でエレベーターが稼働できないケースが発生した旨を紹介した。
ISO/TC178/WG4, WG4/TFC, WG6	フランス、パリ	11月4日～11月8日	カナダ、アメリカ、イギリス、フィンランド、イタリア、スイス、日本計7ヶ国・機関 11人	箱崎 勝則	(1)ISO 8100-1/-2の改訂スケジュール ベースとなるEN81-20/-50のAmendment 1の進捗に合わせて、ISO 8100-1/-2改訂版のスケジュールを見直し、2023年3月末となる予定。 (2)CEN/TC10/AH17とのリエゾン会議 EN81-20/-50のAmendment 1の詳細説明 1)承認済みのInterpretation Interpretation 013迄は既に発行済み。WG1で承認済みの014から022までを後日回覧する。 2)現在開発中の規格の作業状況 昇降路アクセスへのガイドライン、EN 81-20の適合性確認のチェックリスト、身障者用避難エレベーターの規定、風車発電用エレベーター、エスカレーター関連規格等の作業状況についてCENメンバーから説明があった。
ISO/TC96(クレーン)/SC5(使用、運転、保守)/WG	中国、上海	10月8日～10月9日	10名 アメリカ1名、フィンランド1名、 日本1名、中国7名	香川 英一	本WG(ISO12480-1 Safe use - Part1:Generalの見直しWG)のSecretary及び日本代表として参加した。WDIについて提出されたコメントを審議した。また健康上の理由によりコンビナーについて、WG後に交代のための投票をおこなうことを説明した。 主な審議内容は下記。  1. 本規格で扱う遠隔操作の定義の確認をした。 2. とも吊りの荷重制限、特殊な使用方法等に関する記述について審議した。 3. 新規追加の附属書E“遠隔操作に要求される能力、遠隔操作に関する安全要求”について審議した。  なお、今回SC6WG3から本規格見直しについての申し入れ事項があることがアメリカ委員より報告され、その扱いについて、提案国の中国で検討することとなった。 また、ロンドン年次国際会議及び今回の審議内容を織り込んで、12月までにCD投票を実施することとした。
ISO/TC96(クレーン)/SC3(ロープの選択)/WG3(フ	フランス、ビルールバンヌ	10月1日～10月2日	10名 フランス、ドイツ、日本フランス・AFNOR 3名、ドイツ DIN 5名、 日本・JISC 2名 計3か国 10人	黒津 仁史	ISO/TC96 SC3 WG3はISO 16625 Selection of wire ropes - drums and sheavesの改定を議論している。今回はドイツからのコメント(N30およびN45)および日本からの疑問点に対する質疑を行った。 ・動索ロープの静的強度照査 ISO16625改定案(N44)の表2に示す係数 $\gamma_p$ の変更およびロープ末端の種類に対する係数の追加が提案された。次回WGでドラフトが提案されることになった。 ・動索ロープの疲労強度照査 クレーンクラス分類の適用およびロープ交換等の考え方は明確な決まりは無く、それぞれのクレーン設計に応じて設定できることを確認した。また、疲労サイクルは有負荷、無負荷で1サイクルと考えることを確認した。 ・動索ロープの多層巻時の強度照査 ISO16625:2013の表2のM1～M5が改定案(N44)の表8のAc2～Ac6Iに一致するように係数が調整されていることを確認した。 ・今後の予定 次回WGでは静索ロープについて議論することになった。また、2020年6月TC96総会までに2回(2月と4月)のWG開催が提案された。
ISO/TC96(クレーン)/SC3(ロープの選択)/WG3(フ	フランス、ビルールバンヌ	10月1日～10月2日	フランス・AFNOR 3名、ドイツ DIN 5名、日本・JISC 2名 計3か国 10	中本 洋平	ISO/TC96 SC3 WG3はISO 16625 Selection of wire ropes - drums and sheavesの改定を議論している。今回はドイツからのコメント(N30およびN45)および日本からの疑問点に対する質疑を行った。 ・動索ロープの静的強度照査 ISO16625改定案(N44)の表2に示す係数 $\gamma_p$ の変更およびロープ末端の種類に対する係数の追加が提案された。次回WGでドラフトが提案されることになった。 ・動索ロープの疲労強度照査 クレーンクラス分類の適用およびロープ交換等の考え方は明確な決まりは無く、それぞれのクレーン設計に応じて設定できることを確認した。また、疲労サイクルは有負荷、無負荷で1サイクルと考えることを確認した。 ・動索ロープの多層巻時の強度照査 ISO16625:2013の表2のM1～M5が改定案(N44)の表8のAc2～Ac6Iに一致するように係数が調整されていることを確認した。 ・今後の予定 次回WGでは静索ロープについて議論することになった。また、2020年6月TC96総会までに2回(2月と4月)のWG開催が提案された。
ISO/TC189(セラミックタイル)	ドイツ、ベルリン	11月10日～11月13日	オーストラリア、ブラジル、カナダ、中国、ドイツ、インド、イスラエル、イタリア、日本、ヨルダン、マレーシア、メキシコ、ルウエー、フィリピン、ホルガル、スペイン、スウェーデン、トルコ、イギリス、アメリカ 計20ヶ国、40名	横井 弘喜	TC189: ChairmanがNoah Chitty(アメリカ)に交代、WG1のコンビナーがMaria Chiara Bignozzi(イタリア)に交代となった。 WG1及びWG4: 現在検討中の「全ての属性に対する耐摩耗性試験方法」の経過が報告され、8ヶ国によるラウンドロビンをを行うことが承認された。 WG2: Panels/Slabsの定義について検討され、1m <sup>2</sup> 以上をPanels/Slabsとすることとなった。 WG3: 防水膜、音調整膜の試験方法、試験板体となるコンクリートブロックの標準化について議論された。 WG6: TR17870-3の対象となるタイルの大きさについて議論された。 WG8: CD17221-1およびCD17221-2の投票結果について報告があった。日本、中国から反対票及びコメントを出しており、コメントに対する回答が報告されたが、詳細箇所の検討については後日E-Meetingを開催することとなった。 WG9: WG3と同じく試験板体となるコンクリートブロックの標準化について議論され、必要に応じてラウンドロビンをを行うこととなった。 WG10: 各国で採用されている滑り試験方法について報告があった。 WG11: 非結合膜の試験方法について議論された。
ISO/TC189(セラミックタイル)	ドイツ、ベルリン	11月10日～11月13日	オーストラリア、ブラジル、カナダ、中国、ドイツ、インド、イスラエル、イタリア、日本、ヨルダン、マレーシア、メキシコ、ルウエー、フィリピン、ホルガル、スペイン、スウェーデン、トルコ、イギリス、アメリカ 計20ヶ国、40名	橋田 亮	TC189: ChairmanがNoah Chitty(アメリカ)に交代、WG1のコンビナーがMaria Chiara Bignozzi(イタリア)に交代となった。 WG1及びWG4: 現在検討中の「全ての属性に対する耐摩耗性試験方法」の経過が報告され、8ヶ国によるラウンドロビンをを行うことが承認された。 WG2: Panels/Slabsの定義について検討され、1m <sup>2</sup> 以上をPanels/Slabsとすることとなった。 WG3: 防水膜、音調整膜の試験方法、試験板体となるコンクリートブロックの標準化について議論された。 WG6: TR17870-3の対象となるタイルの大きさについて議論された。 WG8: CD17221-1およびCD17221-2の投票結果について報告があった。日本、中国から反対票及びコメントを出しており、コメントに対する回答が報告されたが、詳細箇所の検討については後日E-Meetingを開催することとなった。 WG9: WG3と同じく試験板体となるコンクリートブロックの標準化について議論され、必要に応じてラウンドロビンをを行うこととなった。 WG10: 各国で採用されている滑り試験方法について報告があった。 WG11: 非結合膜の試験方法について議論された。

ISO/TC189(セラミックタイル)	ドイツ、ベルリン	11月10日～11月13日	オーストラリア、ブラジル、カナダ、中国、ドイツ、インド、イスラエル、イタリア、日本、ヨルダン、マレーシア、メキシコ、ルウエー、フィリピン、ホルガル、スペイン、スウェーデン、トルコ、イギリス、アメリカ 計20ヶ国、40名	高橋 正男	TC189: ChairmanがNoah Chitty(アメリカ)に交代、WG1のコンビナーがMaria Chiara Bignozzi(イタリア)に交代となった。 WG1及びWG4: 現在検討中の「全ての属性に対する耐摩耗性試験方法」の経過が報告され、8ヶ国によるラウンドロビンをすることが承認された。 WG2: Panels/Slabsの定義について検討され、1㎡以上をPanels/Slabsとすることとなった。 WG3: 防水膜、音調整膜の試験方法、試験板体となるコンクリートブロックの標準化について議論された。 WG6: TR17870-3の対象となるタイルの大きさについて議論された。 WG8: CD17221-1およびCD17221-2の投票結果について報告があった。日本、中国から反対票及びコメントを出しており、コメントに対する回答が報告されたが、詳細箇所の検討については後日E-Meetingを開催することとなった。 WG9: WG3と同じ試験板体となるコンクリートブロックの標準化について議論され、必要に応じてラウンドロビンをすることとなった。 WG10: 各国で採用されている滑り試験方法について報告があった。 WG11: 非結合膜の試験方法について議論された。
ISO/TC178/WG5	中国 西安	10月22日～10月24日	ドイツ(1)、オーストリア(3)、オーストラリア(1)、イタリア(1)、アメリカ(1)、中国(9)、日本(2) 計7か国、18名	根本 雅彦	1. 各国のエスカレーター規格の更新 各国ともに前回のウィーン会議以降に更新された内容は無かったが、SACオブザーバーへの紹介として、オーストラリア(AS / NCC)、アメリカ(ASME / CSA)、欧州(EN)の現行規格の更新状況を各代表者が説明し、議論を行った。また、日本は更新内容が無いことを報告した。 2. ASME(アメリカ機械学会)の著作権問題の現状 ISO/TC178議長Gero Gschwendtner氏から、著作権問題の解決はしていないことの説明があった。本会議では、TRの改訂作業を継続するため、ASMEの内容は箇条番号のみを記載した表記に変更し、改訂作業を継続することとした。 3. ISO/TR 14799-2(ISO/TR 14799-1の安全規格の要約とコメント)の更新 著作権に関してISO事務局へ提示した表記案に沿って、ASME規格の記載方法を箇条番号のみとする変更と改訂作業を行った。次回会議以降も継続審議となった。
ISO/TC178/WG5	中国 西安	10月22日～10月24日	ドイツ(1)、オーストリア(3)、オーストラリア(1)、イタリア(1)、アメリカ(1)、中国(9)、日本(2) 計7か国、18名	田原 健剛	1. 各国のエスカレーター規格の更新 各国ともに前回のウィーン会議以降に更新された内容は無かったが、SACオブザーバーへの紹介として、オーストラリア(AS / NCC)、アメリカ(ASME / CSA)、欧州(EN)の現行規格の更新状況を各代表者が説明し、議論を行った。また、日本は更新内容が無いことを報告した。 2. ASME(アメリカ機械学会)の著作権問題の現状 ISO/TC178議長Gero Gschwendtner氏から、著作権問題の解決はしていないことの説明があった。本会議では、TRの改訂作業を継続するため、ASMEの内容は箇条番号のみを記載した表記に変更し、改訂作業を継続することとした。 3. ISO/TR 14799-2(ISO/TR 14799-1の安全規格の要約とコメント)の更新 著作権に関してISO事務局へ提示した表記案に沿って、ASME規格の記載方法を箇条番号のみとする変更と改訂作業を行った。次回会議以降も継続審議となった。
ISO TC204/WG16	シンガポール	10月14日～10月18日	9か国(アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、シンガポール、中国、韓国、日本)、30人	田中 清一	□ISO/CD 17515 Part 2:“LTE V2X D2D”はレゾリューションが終了し、DISへ移行する。 □ISO/CD 22738“Optical Camera Communication”はレゾリューションが終了し、DISへ移行する。 □ISO 21210“IPv6 Networking”は最新のC-ITSIにあわせマルチパートに変更する。 □ISO 21217“ITS Station Architecture”は日本から提案していた改訂内容を含め、改訂作業を開始する。 □新規審議項目案“Use cases for sharing of probe data”はPWIとして検討を開始する。 □新規審議項目案“Lower layer protocols for usage in the European digital tachograph”はタイトルやスコープを含め審議が必要なため、PWIとして検討する。
ISO TC204/WG17	シンガポール	10月14日～10月18日	韓国、中国、ニュージーランド、オーストリア、ドイツ、マレーシア、ギリシャ、日本から、計25名	佐藤 雅明	WG17では、スマートフォンやPNDに代表されるノーマディックデバイスと呼ばれる可搬型の端末を活用したITSについて議論をおこなっている。スマートフォンを活用したITSは広範囲・多岐に渡っており、様々なワークアイテムが提案されており、今回の会議では、複数の移動モーダルの連携(MaaS)を支援するアイテムや、スマートフォンをキーデバイスとした走行支援などについての議論が行われた。韓国より新たに提案された自動運転を前提とした車両のセンサのdiagnosisと連携してノーマディックデバイスでその結果を確認するシステムについては、日本からの強い申し入れと懸念を受け、国際的なコンセンサスでワークアイテム化しないこととなった。日本としては、内容を十分に吟味し標準化の影響範囲や対象を分析すると共に、新しいサービスや新規ビジネス市場に関わるようなワークアイテムについては新規提案も積極的に検討していく。
ISO/TC110, SC1, SC2, SC2/WG11, SC5, SC5/W	中国 合肥	11月11日～11月15日	ドイツ、フランス、イギリス、スウェーデン、イタリア、オーストラリア、中国、韓国、日本 計9ヶ国43名 (及びアメリカ WEB参加3名)	森 武史	SC2/WG11(安定度関係) ・ISO22915-3 定期見直しコメント処理 日本提案1件合意。 ・ISO22915-5 定期見直しコメント処理 日本提案1件否決されたが、今後の改定で再度審議。全面改訂なら2020年6月15日、一部改定なら2020年2月15日までに原案提出。各国の追加提案待ち。 SC5/WG1(エネルギー効率) ・ISO/DIS 23308-1及びDIS 23308-2 DIS投票コメント処理 日本提案2件合意、2020年1月15日までにFDISを登録する。 SC5/WG2(リサイクル) ・ISO23434-1及び23434-2 NP投票コメント処理、2020年1月にCD登録予定。 SC1(用語) ・ISO5053-1改定、FDISを12/15までに提出。 SC2(安全) 各WG及び各国の活動状況報告。日本からは関連JIS規格の制定状況等報告を行った。 WG1(フォークアーム)、WG2(安全)、WG11(安定度)のコンビナーを再選。 SC5(サステナビリティ) 各WG及び各国の活動状況報告。日本からは関連する国内法規制の状況等報告を行った。 TC110(産業車両) 各SC、リエゾン等の活動状況報告。
ISO/TC110, SC1, SC2, SC2/WG11, SC5, SC5/W	中国 合肥	11月11日～11月15日	ドイツ、フランス、イギリス、スウェーデン、イタリア、オーストラリア、中国、韓国、日本 計9ヶ国43名 (及びアメリカ WEB参加3名)	廣田 憲司	SC5/WG1(エネルギー効率) ・ISO/DIS 23308-1及びDIS 23308-2 DIS投票コメント処理 日本提案2件合意、2020年1月15日までにFDISを登録する。 SC5/WG2(リサイクル) ・ISO23434-1及び23434-2 NP投票コメント処理、2020年1月にCD登録予定。 SC1(用語) ・ISO5053-1改定、FDISを12/15までに提出。 SC2(安全) 各WG及び各国の活動状況報告。日本からは関連JIS規格の制定状況等報告を行った。 WG1(フォークアーム)、WG2(安全)、WG11(安定度)のコンビナーを再選。 SC5(サステナビリティ) 各WG及び各国の活動状況報告。日本からは関連する国内法規制の状況等報告を行った。 TC110(産業車両) 各SC、リエゾン等の活動状況報告。



ISO/TC178/WG12	フィンランド、ヘルシンキ	10月23日～10月24日	フィンランド(3)、ドイツ(2)、アメリカ(1)、スイス(1)、中国(1)、インド(1)、日本(2) 計7か国、11名	佐藤 慎史	1. ISO/TC178/WG12(サイバーセキュリティ)発足 第1回会議であり、2019年4月のISO/TC178フランクフルト総会で議決されたWGの発足の経緯等について、WG12のコンペナーに就任したフィンランドのAri Kattainen氏より説明された。 2. ISO/TC178のポータルサイトの紹介と利用 今回発足したWG12は新規のWGであり、ISO/TC178のエキスパートとして始めて参加する人も含まれているため、ISO/TC178の組織、WG12の資料共有のためのISO Livelink Portalを紹介し、規格開発の流れ等についての説明がされた。 3. ISO 8102-20(サイバーセキュリティ)開発 ISO/TC178/WG12に登録されたNPで開発するISO 8102-20について、次の内容を共有した。 1)既存のサイバーセキュリティ関連規格(IEC Guide120, IEC 62443, ISO/TR 22100等)を確認した。 2)アメリカのNEII(National Elevator Industry, Inc.)がまとめた昇降機のサイバーセキュリティガイドラインについて、アメリカの委員より紹介があった。 3)開発するISO 8102-20の開発スケジュール及び規格の適用範囲等の審議を行い、参加者で共有、今後の作業を確認した。
ISO/TC178/WG12	フィンランド、ヘルシンキ	10月23日～10月24日	フィンランド(3)、ドイツ(2)、アメリカ(1)、スイス(1)、中国(1)、インド(1)、日本(2) 計7か国、11名	坂田 幸司	1. ISO/TC178/WG12(サイバーセキュリティ)発足 第1回会議であり、2019年4月のISO/TC178フランクフルト総会で議決されたWGの発足の経緯等について、WG12のコンペナーに就任したフィンランドのAri Kattainen氏より説明された。 2. ISO/TC178のポータルサイトの紹介と利用 今回発足したWG12は新規のWGであり、ISO/TC178のエキスパートとして始めて参加する人も含まれているため、ISO/TC178の組織、WG12の資料共有のためのISO Livelink Portalを紹介し、規格開発の流れ等についての説明がされた。 3. ISO 8102-20(サイバーセキュリティ)開発 ISO/TC178/WG12に登録されたNPで開発するISO 8102-20について、次の内容を共有した。 1)既存のサイバーセキュリティ関連規格(IEC Guide120, IEC 62443, ISO/TR 22100等)を確認した。 2)アメリカのNEII(National Elevator Industry, Inc.)がまとめた昇降機のサイバーセキュリティガイドラインについて、アメリカの委員より紹介があった。 3)開発するISO 8102-20の開発スケジュール及び規格の適用範囲等の審議を行い、参加者で共有、今後の作業を確認した。
ISO/TC6/SC2/WG25	オーストラリア、メルボルン	11月19日	アメリカ、カナダ、フランス、スウェーデンの各紙パルプ関連研究所、韓国の国民大学等から計17名	江前 敏晴	JWG12では、循環型社会に関する冗長な説明が本文にあったので削除し、外部の白書を引用するように修正された。インクの種類の説明が多すぎるので簡略化した。参考文献として、日本印刷産業連合会の規格「ドライトナー印刷物のリサイクル適性評価標準試験法」が掲載されることが認められた。WG25では、日本が提案したISO 8791-5 (Oken method/王研法)に対するDIS投票時のコメントについて検討した。1つのリングの幅の許容範囲を±0.3mmとしているが9リング合計で5.4mmになり、許容値が大きすぎる、との指摘があった。これに対し、最も外側の直径を±0.3mmと規定しているのが大きくなりすぎないことを説明した。会議ではその他の指摘はなく、DISが承認された。2020年の7月までにFDIS投票に入ることが決まった。後日議事録が承認され、以上2件のWG決定事項が確定した。
ISO/TC6/WG3, WG13	オーストラリア、メルボルン	11月18日～11月19日	14か国/44名。ISO/TC役員・関係者8名、仏3名、米国4名、独5名、日6名、韓3名、ケニア1名、ニュージーランド1名、オーストラリア3名、中国2名、カナダ2名、フィンランド1名、スウェーデン3名、スリランカ1名、タイ1名。	小野 晃	ISO/TC6(紙、パルプ、板紙、セルロースナノ材料)のWG13(湿度)及びWG3(光学的性質)に参加した。WG13ではオープン乾燥法による紙、パルプ、板紙、セルロースナノ材料の絶乾率測定を審議した。 日本にとっての今回の関心事はセルロースナノ材料の懸濁液サンプルに関するIS規格638-2の作成である。出席者がプロジェクトリーダーを務め、CDドラフトに対するすべてのコメントを解決し、次はDIS投票へ進むことが了承された。日本提案のタイトルとスコープの変更案が認められ、プレナリー会議で決議された。一方ラウンドロビンテストは進行中であることを報告し了承された。 一方ISO 638-1は固体状態のサンプルに関するIS規格作成であり、フランスのプロジェクトリーダーによって進められた。ラウンドロビンテストの結果が発表され、データに良好な一致度が見られ測定技術が成熟していることが推定された。低濃度でのラウンドロビンテストを追加したのちDIS投票に進むことが了承された。
ISO/IEC JTC1 SC 28/WG5 London Meeting Dec	英国 ロンドン	12月4日～12月6日	アメリカ、カナダ、フランス、スウェーデンの各紙パルプ関連研究5カ国(英国、オランダ、中国、ドイツ、日本)・7名	森本 悦朗	・ISO/IEC 22954のNP投票結果確認とコメント対応を実施。日本コメントは次回WDで反映されることで合意された。今回の会議での討議結果を反映したWDを作成した。今後は1月のZOOM会議を経て5月末までに最新版WDを作成・回覧する。 ・ISO/IEC 15775:1999 Revisionの新たな要改定箇所の確認と対応検討を実施。今後は5月末までにWD2を作成・回覧する。
ISO/IEC JTC1(情報技術)/SC35, 同SC35/WG1,	韓国 釜山	1月13日～1月17日	9カ国/31名及びITU-T 1名 議長(Khalid Choukri, フランス), 幹事(Mélissa Jean, フランス) オーストラリア1名, フランス3名, カナダ3名, スウェーデン2名, スペイン2名, ドイツ1名, 中国6名, 韓国7名, 日本6名	池田 宏明	“メニューナビゲーションのユーザインタフェース”について、 □ISO/IEC 17549-1の議論。CDに対する日本意見を説明し、DISに反映されるようにした。 □ISO/IEC 17549-2の議論。FDISに対する編集上の意見を審議、ISIに反映されるようにした。 □ISO/IEC 17549-3の議論。CDに対する日本意見を説明し、改訂2CDに反映されるようにした。 “インタラクションモード設定用アイコン”について、 □ISO/IEC 11581-7の議論。NPに対する日本意見を説明し、省略時の機能表現の簡単化(simple)及び詳細化(complex)を表現するアイコン案を我 国から提案し、CDIに含めることにした。 “自然言語選択の一般的なインタフェース”について、 □ISO/IEC 23836の議論。DISに対する日本意見を説明し、FDISに反映されるようにした。
ISO/TC96/SC3/WG3	ドイツ ケムニッツ	12月3日～12月4日	フランス・AFNOR 2名、ドイツ・DIN 5名、イギリス・BSI 1名、日本・JISC 2名 計4か国 10人	地藤 功一	ISO/TC96 SC3 WG3はISO 16625 Selection of wire ropes - drums and sheavesの改定を議論している。今回はコメント(N47及びN48)の未解決項目及び日本からの追加コメント(N52)に対する質疑を行った。主な審議内容は下記の通りである。 ・動索ロープの静的強度照査 ISO16625改定案(N49)の式(15)で計算される係数 $\gamma_p$ を定数値2.0とすることが提案された。 $\gamma_p$ は静索ロープの強度照査でも使われており、静索ロープでも2.0の適用に問題無ければ $\gamma_p=2.0$ とすることになった。 ・動索ロープの疲労強度照査 改訂案(N49)の附属書Eにはクレーン機種別に荷重スペクトル係数等の数値やロープ交換数の計算式を参考として示していたが、荷重スペクトル係数は式(28)に基づいて計算しなければならないこと及びロープ交換数の計算式は参考ではなく本文に必要であることから、6.3.3章及びAnnexEを見直しすることとした。 ・今後の予定 次回WG(2020年2月)では、今回のWGでの未解決項目及び静索ロープについて議論することになった。
ISO/TC96/SC3/WG3	ドイツ ケムニッツ	12月3日～12月4日	フランス・AFNOR 2名、ドイツ・DIN 5名、イギリス・BSI 1名、日本・JISC 2名 計4か国 10人	山下 洋正	ISO/TC96 SC3 WG3はISO 16625 Selection of wire ropes - drums and sheavesの改定を議論している。今回はコメント(N47及びN48)の未解決項目及び日本からの追加コメント(N52)に対する質疑を行った。主な審議内容は下記の通りである。 ・動索ロープの静的強度照査 ISO16625改定案(N49)の式(15)で計算される係数 $\gamma_p$ を定数値2.0とすることが提案された。 $\gamma_p$ は静索ロープの強度照査でも使われており、静索ロープでも2.0の適用に問題無ければ $\gamma_p=2.0$ とすることになった。 ・動索ロープの疲労強度照査 改訂案(N49)の附属書Eにはクレーン機種別に荷重スペクトル係数等の数値やロープ交換数の計算式を参考として示していたが、荷重スペクトル係数は式(28)に基づいて計算しなければならないこと及びロープ交換数の計算式は参考ではなく本文に必要であることから、6.3.3章及びAnnexEを見直しすることとした。 ・今後の予定 次回WG(2020年2月)では、今回のWGでの未解決項目及び静索ロープについて議論することになった。



ISO/IEC JTC 1/SC 17	米国 メンローパーク	2月18日～2月20日	合計5か国・18名 アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、日本	前田 めぐみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO/IEC 10373-1はFDIS投票前。エディター交代。</li> <li>・ISO/IEC 18328-2は3回目のCD投票コメント17件の処理。日本コメント6件。日本よりID-Bカードを使用時の注意喚起をユーザー側へ通知することやリスクのない環境での使用を規格内に記載することを要求し、注意文言を記載することで合意を得た。ISO/IEC 10373-1での問題が再発しないよう、高度な3ホイール試験のカード固定方法を明確にした。DIS投票へ進むことで合意。</li> <li>・ISO/IEC 24789-1.2は期限内にCD投票へ進むことも困難であることを国際会議内で合意し、今後はテクニカルレポートにできないかの検討を開始。日本からは可塑剤試験方法についてプレゼン。可塑剤試験は改定案の材料が入手困難であることを報告し、現行材料も今後入手困難になるリスクがあるため、別の材料案も選択できるように修正の合意を得た。</li> </ul>
ISO/TC178/WG4TFRA	スイス ルツェルン	2月11日～2月12日	アメリカ、フィンランド、スイス、オーストリア、オーストラリア、マレーシア、日本計7ヶ国 10人	伊藤 和昌	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)8月のニューヨーク会議で決定したサブチームの編成、作業テーマ及び内容を再確認した。</li> <li>(2)事前送付されていたISO/TR14798-1のドラフト案に関するコメントについて審議した。中でも、リスク分析表の「リスクを除去または低減すべきかを検証する範囲」の妥当性について、時間をかけて議論した。具体的には、100から1000万回に一度重篤な事故が発生する危険は、現在全世界に設置されているエレベーター数で換算すると年間2から20件程度発生することになるが、社会許容レベルといえるかの議論。次回会議でも継続協議する。</li> <li>(3)次のスケジュールが提案された。</li> <li>1)2020年12月31日までに委員会原案(CD)を完了</li> <li>2)2021年1月から2月までにCDの承認投票</li> <li>3)2021年3月から6月までに投票コメントへの対応</li> <li>4)2021年8月26日までに国際規格原案(DIS)を完了</li> </ul>
ISO/TC178/WG4TFRA	スイス ルツェルン	2月11日～2月12日	アメリカ、フィンランド、スイス、オーストリア、オーストラリア、マレーシア、日本計7ヶ国 10人	箱崎 勝則	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)8月のニューヨーク会議で決定したサブチームの編成、作業テーマ及び内容を再確認した。</li> <li>(2)事前送付されていたISO/TR14798-1のドラフト案に関するコメントについて審議した。中でも、リスク分析表の「リスクを除去または低減すべきかを検証する範囲」の妥当性について、時間をかけて議論した。具体的には、100から1000万回に一度重篤な事故が発生する危険は、現在全世界に設置されているエレベーター数で換算すると年間2から20件程度発生することになるが、社会許容レベルといえるかの議論。次回会議でも継続協議する。</li> <li>(3)次のスケジュールが提案された。</li> <li>1)2020年12月31日までに委員会原案(CD)を完了</li> <li>2)2021年1月から2月までにCDの承認投票</li> <li>3)2021年3月から6月までに投票コメントへの対応</li> <li>4)2021年8月26日までに国際規格原案(DIS)を完了</li> </ul>